

日・アフリカ地域経済共同体(RECs レックス)議長国首脳会合
安倍総理スピーチ

「農民の懐を豊かにする農業へ」

(9月26日(木曜日)15:00-16:00(於:国連本部 NLB 第5会議室))

TICAD V から3ヶ月余り。また皆さん、アフリカの友人たちにお会いできて、たいへん嬉しく思います。

スピーチへ入ります前に、申し上げたいことがあります。9月21日、ケニアで、テロリストによる攻撃が多くの人命を奪いました。卑劣、かつ許し難いこうしたテロ行為を、私どもは断固として非難します。

TICAD V において我が国は、テロとの闘いに対する支援の手を強めていくと約束しました。私達は国際社会との協力のもと、そのため一層の務めを果たします。

さて、ご記憶でしょう。TICAD V の横浜宣言で、私たちは、農業の従事者を、成長の主人公にしようという目標を立てました。

マヤキ長官の NEPAD(ネパッド)では、包括的アフリカ農業開発プログラム(CAADP(カダップ))を進めておいでです。地域経済共同体(RECs)の数々でも、農業協力を太い柱にしておられるようで、私は、たいへん心丈夫に思っています。

今日はそんな皆様と日本との、ストックテーキングの場。お互い、いま何を考え、実行していて、何が必要か、忌憚なく議論できたらと願っています。

私は JOCV・青年海外協力隊の皆さんを、自分の子どもぐらいの若者を含め、いつも敬愛しているのです。中にはアフリカで、付加価値の高い農業ビジネスを自分で始める人がちらほら出ていることに、感心したり、勇気づけられたりしています。

例えば、ブルキナファソに赴任して出会った女性たちがつくるシアバターから、皮膚に優しい石鹸ができると知って、その商品化に成功した森重裕子さん。石鹸のブランド「ン・セー」は、ブルキナファソ西部の言葉で、女の人が言う「ただいまー」なのだそうですね。

日本人が聞くとこの言葉は、なんとも柔らかく、草原を吹き渡る風の匂いがするようです。

エチオピアで取れる、世界最高のシープスキンを使って、目にも鮮やかな色使い、手にとって嬉しい肌触りのカバンをこしらえた女性も、元 JOCV の鮫島弘子さんです。ブランド名「アンドゥアメット」は、エチオピアのアムハラ語で言う、「ひととせ(一年)」という意味なのだとか。

アフリカに行って、アントレプレナーシップに目覚め、極めて付加価値の高い事業を起こした彼女たちは、素晴らしいロールモデルだと思い、尊敬しています。

ちょうど、私自身の、日本経済再生プランでも、女性の力を活用することが至上命題ですし、今回、一般討論演説のテーマにも、女性のエンパワーメントを大きな項目として選んだところです。森重さんや、鮫島さんの成功例に励まされ、後に続くひとたちが、たくさん出ればよいと思っています。

しかも、森重さん、鮫島さんの足跡には、重要なヒントがあります。日本と一緒に事業をつくり、商品作物を開発していく可能性は、アフリカの広い大地に、無限にありそうだ、ということではありませんか。

日本は元々、狭い耕作地を、手塩をかけて育て、単位収量を伸ばす「インダストリアル・レボリューション」ならぬ、「インダストリアス・レボリューション」をした国で、その証拠は、夕陽など映ると息を呑むほど美しい棚田の景色に、今も残っています。私の地元にもあって、いつも自慢にしています。

ですから、アフリカとのかかわりも、日本人が手がけると、四季の移ろい、歳月の変化とじっくり付き合っ、農業の地力を育てて行こうと、おのずとそういう発想になるんだと思います。

そうでなければ、ネリカ米の開発に、あんなに取り組むことはなかったでしょう。ネリカ米で、アフリカの米作を倍増する計画が、2008年以來10年プランで進んでいますね。この支援は、引き続き力を入れていきます。

収穫された作物に、加工を施し、各地の港や飛行場から、世界各地へ出て行く姿。流通網が四通八達し、アフリカが、ひとつの有機体となって、脈打ち、躍動する姿を、私は今年、TICAD V の場で皆さんと一緒に夢見ることができました。

私は TICAD V で言いました。「食べるための農業」を目指すだけでは十分ではない。さらに「稼ぐための農業」を目指すべきだと。農民が自分たちの食料を確保するだけでなく、余剰の作物を市場に売り、また商品作物を作ること、現金収入を得るようになれば、貧困の問題は自ずと解消する。いや、アフリカの人口の太宗をしめる農民が豊かになることは、即ち経済成長を支える大きな消費市場を作り出すことになるのです。

あと少しで、手の届く、実現可能な夢だという、確信も得ました。

今日は RECs 議長の皆様と一緒に、ひととき、農業で伸びるアフリカのビジョン、足元の現実を確かめあって、また元気をお互い、持ち合いたいと思っています。有難うございました。